

武蔵工業大学後援会誌 [マイコム]

MI-COM

no. 33 2006.1

- 後援会副会長挨拶……………p1
 - 平成17年度 「大学と父母との連絡会」取材レポート……………p2
 - 平成17年度 就職動向と支援……………p5
 - キャンパス Spot ⑫……………p7
 - クラブ活動紹介 ⑬……………p9
 - Campus Topics……………p13
 - 平成17年度 「大学と父母との連絡会」実施結果……………p15
- 写真：秋——SAKURAガーデンより7号館を望む(世田谷キャンパス)



後援会副会長挨拶



武蔵工業大学後援会副会長

神山 次郎

武蔵工業大学(武蔵工大)の就職力

早いもので武蔵工大との付き合いも既に11年になる。この間二人の子供の教育をお願いしたが、下の子供がこの春の卒業を目指し修論作成の最終段階にある。

近年フリーターやニートが社会問題になっていることから「卒業後はきちんとした就職を」と願っている親は多いと思う。「大学冬の時代」の到来以来マスコミも様々な角度から基準を設け大学ランキングを発表しているが、武蔵工大の「就職力」は理工系大学の中でもトップクラスである。大学は長年にわたり就職支援体制を整備してきているし、後援会も可能な限り大学への支援を行ってきている。そこで本稿では就職に関して私なりにポイントとと思っていることを二三ご披露したい。

まず何よりも大事なことは、子供に対し早い時期から就職について、はっきりした目的意識を持たせることである。我が家では入学時より「大学院修士を目指し就職に生かす」という目標を設定した。ここで親として気をつけたいといけないうのは「もう大学生だから自分で好きなようにしなさい」と言って放任しないことである。「大学生といっても1,2年生は高校生の延長である。従って親の責任として入学時より卒業後を見据え大学生生活の節目節目で子供の進路選択に関与すべし」というのが私の考えである。

勉学の点で特に大事なことは学部4年生からの研究室(の生活)である。研究には多くの苦労や困難が伴うので親としては場合によって励ますことも突き放すことも必要である。だからこそ成果が出た時の達成感は格別であるし次のステップへの自信にもつながる。また同じ環境にいる先輩、同期、後輩とも非常に仲がよくなるので人間関係を築く上でこの経験は実に貴重である。指導教授は、研究面での指導のほか「研究発表会に企業のOBを招く」「企業との共同研究の機会を設ける」「学会に出席させる」等、院生や学部生に対し外部社会との接点を持たせることで社会生活における基本的素養が身につくよう教育して頂いているので、当然のことながら就職についてもキーパーソンである。この点では後援会役員として各種行事に出席の際、指導教授はじめ学生部長・副部長の先生の他、多くの教職員の方にお会いし子供の様子、学部や大学院の動向あるいは就職状況等お聞きすることが出来、子供の大学生活に関し大いなる安心感を持たた。

OBと言えもうひとつ印象に残っていることがある。武蔵工業会(同窓会)である。後援会副会長として総会にも何度か出席させて頂いたが、この場でも武蔵工大出身の先生方が各企業の第一線で活躍中のOBに就職支援を働きかけている。実際私の子供は二人とも就職希望企業の先輩より実に適切な指導を頂いたようで親としても大変感謝している。このようなOBの先生方の陰ながらの地道な努力が就職力の源になっている、というのが私の結論である。

今春、子供の卒業と共に私も10年以上にわたる武蔵工大および後援会との付き合いが無くなる。子供を入学させてほんとうに良かった。任を解かれたときは肩の荷が下りてホッとすると同時に一抹の寂しさが残ると思う。しかし本業としての某総合学園理事の仕事は続くので、今後、学校関係者や受験生の保護者、あるいは知人や友人等と大学進学について話す場合は、陰の応援団として、数ある私学の中でも特に武蔵工大のPRをしていこうと思っている。

武蔵工大と後援会が共催する恒例行事「大学と父母との連絡会」。今年も全国各地の会場にたくさんのご父母を招いて行われました。ここではスケジュールの最終日となる10月1日に、世田谷キャンパス（工学部）と横浜キャンパス（環境情報学部）で開催された東京・横浜地区の連絡会の模様をレポートします。



※ 世田谷キャンパスの全体説明会



※ 中村英夫学長



※ 相模後援会長

本学学生の学習内容や就職状況、そして日常のキャンパス生活がわかり、ご父母は大いに満足された模様

武蔵工大の教育方針をはじめ、現状および今後の展望、さらには就職動向など、ご父母にとって非常に有益な情報収集の機会となっている「大学と父母との連絡会」。今年も7月16日の沖縄を皮切りに全国26会場において開催されました。とりわけ最終日に開催される東京・横浜地区の連絡会は、お子様が日常生活を送っている世田谷と横浜の両キャンパスが会場となるとあって、毎年

大盛況。今年も東京、神奈川、千葉、埼玉にお住まいの方を中心に、世田谷キャンパスに481世帯、横浜キャンパスに183世帯もの方々がお集まりになりました。やはり両キャンパスとも一年生のご父母の参加が一番多かったのですが、二回以上参加している“リピーター”の方も少なからずいらっしゃいました。また、ご夫婦やご家族連れでの参加が例年以上に目立ったのも今年の傾向です。それでは世田谷キャンパスの模様からレポートしましょう。

参加されたご父母の方々の感想

世田谷 キャンパス

※ 河本 慧美さん（都市基盤1年）のご両親
学部・学科説明会のガイダンスをよく聞いてくれるように、と娘に言われました（笑）。蔵書数など新図書館の充実ぶりが裏いすね。



※ 土岐 聖也君（建築1年）のお母さん
高校の学習との違いや、建築という学科の特殊性について少々戸惑いを感じている子供に、親としてアドバイスがしたくて参加しました。

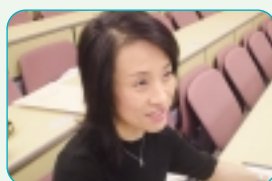


※ 林 聖悟君（電子通信3年）のお父さん
就職率の低下が心配でしたが、説明を聞いて安心。下の息子が武蔵工大を大変気に入っており、兄弟でお世話になるかもかもしれません。



横浜 キャンパス

※ 岡部 義浩君（環境情報3年）のお母さん
大学に来るのは今回が初めて。周囲の環境と馴染んでいていいですね。面倒見の良い大学と、評判が確かめたくて参加しました。



※ 浜野 麻里さん（情報メディア3年）のお母さん
中国との遠隔授業に關しての話が興味深かった。このような機会を用意して父母との連携をしっかりとることは、素晴らしいですね。



※ 岡本 英朗君（情報メディア2年）のご両親
来年から始まるゼミについて聞きたくて参加。疑問が解消しました。今回の説明会や懇談会の様子は、子供にも見せたかったですね。





世田谷キャンパスの受付開始時刻は午前11時から。午後1時から始まる全体説明会の前に、昼食と新図書館見学、吹奏楽団による演奏の時間が用意されていました。昼食は2003年に完成したサクラセンター内の学食にて、普段学生たちが食べているメニューと同じものを試食。皆さん、ボリュームや栄養バランス、価格などをさりげなくチェックしていたようです。2005年に完成したばかりの新図書館の見学では、“近未来ライブラリー”の偉容に多くの方が驚嘆していました。25万冊という圧倒的な蔵書数や最先端IT設備の充実ぶり、さらに3階の空中庭園や地下1階のメディアライブラリーなども注目を集めていたようです。(P.7に新図書館の紹介記事があります。)



※ 全体説明会 (横浜)

※ 新図書館見学 (世田谷)



※ 学科・学年別の説明・懇談会風景 (世田谷)

全体説明会では、中村学長、萩原工学部長、相模後援会長が壇上に立ちました。主要なテーマは、学長が大学内部の変革について、工学部長は学習指導および就職指導の方針について、後援会長は後援会組織の目的について。ご父母は手元の資料を確認しながら各者の話に真剣に耳を傾けていました。2時から学科別説明会、続いて学科・学年別懇談会も催され、より具体的に本学学生たちが受けている教育内容、将来の可能性、就職状況などが説明されました。

一方の横浜キャンパスの受付は10時にスタートし、10時30分から31A教室にて全体説明会が催されました。学長、高田環境情報学部長、相模後援会長、櫻井教務委員長、田中就職担当教員の順にわかりやすく丁寧な説明があり、世田谷キャンパスと同様、皆さん真剣な面もちで話に聞き入っていました。就職担当教員の説明の際にはメモを取るご父母の姿も多く、お子様の将来に対する並々ならぬ関心の高さがうかがえました。

※ 沼上 理君(電子通信1年)のお父さん
私自身の大学のOBです。自分が日々学んでいた頃と比べ、格段と勉強しやすい環境になったと思う。まさに隔世の感がありますね。



※ 伊東 龍君(情報メディア1年)のお父さん
いい意味で大学の現状が把握できました。就職率の意外な高さは驚きでした。昼食では、できればデザートも食べたかったです(笑)。



※ 青木 卓也君(システム情報1年)のご両親
入学式に来られなかったので、初めて息子の通う大学の環境がわかりました。こういう機会を用意してくれたことに感謝しています。



※ 小林 達也君(情報メディア1年)のお母さん
こじんまりとしたキャンパスのアウトホームな雰囲気伝わってきました。早い時期から子供たちに就職を意識させるのもいいですね。



※ 明渡 優君(コンピュータ・メディア3年)のお父さん
3回目の参加です。今年は新図書館の見学を楽しみに来ました。お昼に食べた学食は、私の学生時代より格段においしかったですね。



※ 田中 大介君(情報メディア2年)のお父さん
ISO14001を取得していることは、我々としても自慢です。文系と理系の中間にある領域なので、今後はその特殊性を生かしてください。



※ 堀井 翔一君(環境エネルギー2年)のお母さん
とても美しく気持ちのいいキャンパスですね。学園祭にもぜひ参加したくなりました。学長の話で大学の教育方針がわかり安心しました。



※ 佐野 美緒さん(情報メディア3年)のご両親
私たちが気がかりに思っていることに丁寧に答えてくれて良かった。父母同士が話し合う時間があってもっと良かったのでは。





※ 学科・学年別懇談会（横浜）



※ ダンスサークル「LAVI」のダンスを楽しみながらの昼食（横浜）



説明会の後は学内見学の時間。自然との共生をテーマにした“エコキャンパス”内を自由に見学していただきました。学食におけるランチタイムでは、ダンスサークル「LAVI」がストリートダンスを披露。彼らの練習の成果に多くの方が拍手を送っていました。

1時からは懇談会場に移動し、学科・学年別懇談会を実施。環境情報学部で学ぶお子様たちがどのような学習を受けているのか、そして就職環境はどういう状況になっているのか、などなど、ご父母の皆さんにとって関心の高い事柄についてよりリアルで詳細な説明がありました。

こうして東京・横浜地区の「大学と父母との連絡会」は幕を閉じました。このコーナー下に掲載した“ご父母の感想”を併せて読んでいただければ、参加された皆さんにとって有意義な1日であったことがおわかりいただけると思います。ご都合があって今回は参加できなかったという皆さん、ぜひ来年こそご参加ください。お待ちしております。

参加されたご父母の方々の感想

※ 林 光雄君（コンピュータ・メディア3年）のお父さん
新図書館を見学したかったのと、大学院への進学について話をうかがってみたくて参加しました。進学についての疑問が解消しました。



※ 渡邊 俊介君（環境情報2年）のお母さん
メディアセンターなど、施設の充実ぶりに圧倒されました。就職状況に関してはもう少し具体的な話が聞きたかったですね。



※ 谷口 圭介君（機械1年）のお母さん
大学の雰囲気を知りたくて参加。きれいな環境で驚きました。学食ではヘルシーなメニューまでちゃんと用意されているんですね。



※ 太田 明伸君（情報メディア1年）のお父さん
普段子供と大学の話をしないので今日は非常に有意義。大学の就職への取り組みは現段階で十分だと思います。安心しました。



大学会場以外にも全国24会場で実施

東京・横浜地区以外にも、全国24会場で「大学と父母との連絡会」が開催されました。ここでは富山会場の様子をお伝えします。

※ 富山会場 「学修や就職に対する 関心の高さを実感」

世田谷キャンパス 学生課 両角 興



富山県における「大学と父母との連絡会」は、平成17年9月11日（日）にJR富山駅に程近い名鉄トヤマホテルにて開催致しました。

前日までの雨上がり、初夏を思わせる天候の中、9世帯14名の富山県在住の父母の皆様にご参加をいただきました。

午前10時より開会し、大学側出席者の紹介、会のスケジュールの説明に引き続き、大学の近況について工学部都市基盤工学科の増田教授より、写真や資料を画面に投影しながら説明を行いました。今年度4月にオープンしたばかりの世田谷キャンパス図書館の外観や施設内部の写真をご覧いただく等、武蔵工業大学の旬の情報をお伝え致しました。

その後、学修についての説明や、就職、大学院への進学、そして学生生活関係についての説明を行いました。特に成績評価や卒業までの単位取得スケジュール等の学修関係の話題の際には、メモをとられるような光景がみられ、関心の高さを実感致しました。

また、ご父母の関心が高いもう一つの話題である就職関係の説明の際には、同席して頂いた武蔵工業会（武蔵工業大学同窓会組織）の富山支部の方々より、富山県での卒業生の活躍状況やUターン就職をする際の就職活動の方法等、富山県在住のOBならではの情報を提供して頂くことができました。

大学から一通り説明を終えた後は、参加して頂いたご父母全員に、武蔵工業大学に対して日頃感じている事や父母との連絡会に参加しての感想、質問等を自由に話していただき、「現代の若者に対する思い」から「大学の将来構想」に至るまで、多岐にわたるご意見・ご質問をいただきました。



会の最後には個人面談を行いました。こちらも多数の方からのご希望をいただき、予定の時間を大幅にオーバーしての終了となりました。



平成17年度の就職動向と支援

身近に迫ってきた団塊の世代の大量退職問題や、採用抑制から生じてきた人員構成の歪みの問題から「量も重視」といった採用スタンスになってきており、企業の新卒採用環境はかなりの割合で好転しています。とは言え、学生の能力・適性・意欲・熱意を重視する厳選採用に変化はなく、近年社会問題化されているミスマッチによる早期離職を是正するために、様々な手法を用いて採用試験を課しております。一例をあげるならば、
 ①目的意識にウエイトを置いた職種別・事業部別の採用活動
 ②エントリーシート(学生時代の取り組み、自己PR、志望動機など)での足切り ③一部の大手企業による採用直結型インターンシップ(就業体験)の導入 などであります。企業の採用活

動のキーワードは「早期化」「厳選化」「多様化」であり、そのキーワードに対処すべく本学就職課および学生・就職センターも就職支援に力を入れております。

そのような採用環境の下、本学の就職希望者における内定率は、きめ細かい就職指導・支援(右頁 就職・進学活動スケジュール参照)やOB・OGリクレーターによる積極的な採用サポートによって、学生個々の就職意識が向上したこともあり、それぞれ工学部92.2%、大学院工学研究科93.6%、環境情報学部83.8%、大学院環境情報学研究所94.7%という好結果を収めることができ、文部科学・厚生労働両省の調査(平成17年10月1日現在)65.8%を大きく上回る結果となりました。



平成17年度求人就職内定状況(平成17年12月1日現在)

学科・専攻		項目	就職希望者	内定者	内定率(%)	進学希望者
工 学 部	機械工学科		92	90	97.8	19
	機械システム工学科		59	58	98.3	29
	電気電子工学科		65	65	100.0	41
	電子通信工学科		77	64	83.1	26
	電子情報工学科		49	41	83.7	24
	建築学科		75	67	89.3	41
	都市基盤工学科		75	70	93.3	25
	システム情報工学科		74	68	91.9	25
	エネルギー基礎工学科		24	21	87.5	30
小 計			590	544	92.2	260
大学院 工学研究科	機械工学専攻		36	33	91.7	1
	機械システム工学専攻		24	23	95.8	1
	電気工学専攻		93	92	98.9	1
	建築学専攻		28	21	75.0	0
	都市基盤工学専攻		26	23	88.5	1
	経営工学専攻		22	22	100.0	1
	エネルギー量子工学専攻		21	20	95.2	1
	小 計		250	234	93.6	6
合 計			840	778	92.6	266
環境情報学部	環境情報学科		173	141	81.5	32
	情報メディア学科		173	149	86.1	18
	小 計		346	290	83.8	50
大学院 環境情報学研究所	環境情報学専攻		19	18	94.7	2
合 計			365	308	84.4	52



平成17年度就職内定先企業等／資本金順上位50社(平成17年12月1日現在) ※数値は就職内定者数

工学部・大学院工学研究科			環境情報学部・大学院環境情報学研究所		
東京電力……………3	日本I・B・M……………1	日本精工……………5	東京電力……………1	エーザイ……………1	マクニカ……………1
日産自動車……………5	スズキ……………6	セコム……………2	NEC……………2	カシオ計算機……………1	サンデン……………1
トヨタ自動車……………4	マツダ……………3	石川島播磨重工業……………1	富士通……………1	出光興産……………1	日本ヒューレット・パッカド……………1
NEC……………1	大日本印刷……………4	オムロン……………1	日立製作所……………3	三越……………1	イトーキ……………1
NTT東日本……………2	JR東海……………2	小田急電鉄……………1	東芝……………1	日立ソフトウェアエンジニアリング……………2	NECソフト……………2
日立製作所……………9	大和ハウス工業……………2	大林組……………3	積水ハウス……………1	トランス・コスモス……………1	日本システムディベロップメント……………2
東芝……………10	東京急行電鉄……………2	セイコーエプソン……………5	NTTデータ……………1	カプコン……………1	関東自動車工業……………1
松下電器産業……………1	凸版印刷……………2	竹中工務店……………1	セガ……………1	TIS……………2	ヤフー……………2
シャープ……………1	三菱マテリアル……………1	パイオニア……………7	マツダ……………1	伊藤忠テクノサイエンス……………3	日立電子サービス……………1
JR東日本……………4	大成建設……………12	ヤマハ発動機……………4	大和ハウス工業……………1	インテック……………1	東急エージェンシー……………1
日本原燃……………1	本田技研工業……………12	オリンパス……………7	凸版印刷……………2	岩谷産業……………1	建設技術研究所……………2
積水ハウス……………6	鹿島建設……………2	東京都庁……………1	日本信販……………1	富士ゼロックス……………1	アジア航測……………1
三菱電機……………8	清水建設……………1	横浜市役所……………2	大成建設……………1	東芝ソリューション……………2	帝国データバンク……………1
キャノン……………6	日野自動車……………8	川崎市役所……………1	ミサワホーム……………2	カヤバ工業……………1	インクリメントP……………1
富士重工業……………2	村田製作所……………2	埼玉警察本部……………2	ジュビターテレコム……………1	野村総合研究所……………1	ロッテ……………1
NTTデータ……………2	沖電気工業……………1	独立行政法人宇宙航空研究開発機構……………1	損保ジャパン……………1	日立物流……………1	警視庁……………1
KDDI……………1	いすゞ自動車……………1		パイオニア……………1	東急車輛製造……………1	



就職・進学活動スケジュール

工学部

全学年対象

8月 ◎基本情報処理7日間集中講座
11月 ●公務員ガイダンスおよび講座説明
12月 ●公務員試験受験対策講座
12～6月 ●公務員試験模試(各月1回)

1・2年生(進路・勉強方法を考える)

4月 ◎△▲自己発見レポート(1年生)
◎△▲自己プログレスレポート(2年生)
5月 ◎△▲自己発見レポートフォローガイダンス
◎△▲自己プログレスフォローガイダンス
6月 ◎△▲ブレ就職講演会
8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加

自己の適性に基づいて家庭で協議

3年生(進路についてより具体的に考える)

4月 △進学予定者対象の進学説明会
△図書館などで大学院の各専攻内容や入試問題等を検討
7月 ◎リクルート就職講演会
▲他大学または留学先より資料を取り寄せ情報収集活動開始
8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加
10月 ◎各学科就職ガイダンス(第1回)
◎Uターン就職ガイダンス
◎就職講演会(就職活動全般)
◎ // (自己分析)
◎ // (業界研究)
◎ // (エントリーシート・論文)
◎適性検査(職業適性)
11月～ ◎就職試験対策(SPI・論文文・GAB・CAB)
◎自己分析・筆記試験対策
12月 ◎業界・企業研究、エントリー
◎公務員試験対策集中講座
●公務員試験模試(6月まで各月1回)
1月 ◎各学科就職ガイダンス(第2回)
2月 ◎就職試験対策(一般常識・SPI・履歴書)
◎公開模擬面接
◎就職試験対策(模擬面接)
◎学内企業研究会
●国家公務員採用試験申込書入手
3月 ◎学内企業研究会

4年生(就職・進学活動の本番です)

4月 ◎各学科就職ガイダンス(第3回)
◎就職試験対策(模擬面接)
◎学内での希望調査及び推薦者決定
△進学予定者対象の進学説明会
▲指導教授と相談の上、進学先の検討
●国家公務員採用試験申込書提出
●地方公務員採用試験申込書入手
4～6月 ◎採用試験(3月から開始の企業あり)
◎採用内々定
●地方公務員採用試験申込書提出
5月 △推薦入学募集要項入手・願書提出
●国家公務員採用試験(1次)
6月 △推薦入学試験
●国家公務員採用試験(2次)
●官方訪問(国家公務員)
●地方公務員採用試験(1次)
7月 ●採用内々定(国家公務員)
7～8月 ●地方公務員採用試験(2次)
8月 △▲第1次試験学生募集要項入手・願書提出
●地方公務員採用試験合格発表(翌年1月頃までに内定)
9月 △▲第1次入学試験
10月 ◎採用内定
◎学内での採用内定報告手続
1月 △▲第2次試験学生募集要項入手・願書提出
2月 △▲第2次入学試験
3月 卒業式

環境情報学部

全学年対象

5～12月 課外英会話講座(40分/日・年間100回)
8月 ◎初級シニアト集中講座(5日間)
◎基本情報処理集中講座(7日間)
◎TOEICテストスコアアップ講座(7日間)
9月 ◎SPI対策講座(2日間)
◎公務員・SPI対策講座(11日間)

1・2年生(進路・勉強方法を考える)

4月 ◎△▲自己発見レポート(1年生)
◎△▲自己プログレスレポート(2年生)
5月 ◎△▲自己発見レポートフォローガイダンス
◎△▲自己プログレスフォローガイダンス
8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加
10月 ◎△▲就職講演会

自己の適性に基づいて家庭で協議

3年生(進路についてより具体的に考える)

4月 △図書館などで大学院の各専攻内容や入試問題等を検討
◎就職準備ガイダンス①
◎職業適性検査
◎就職講演会①(オープニングセミナー)
◎就職講演会②(職業観)
◎就職講演会③(自己分析)
◎就職講演会④(エントリーシート・論文文)
5月 ◎職業適性検査(キャリアアフォーカス)
◎就職実践模試(スタート)
▲公務員試験対策ガイダンス
◎インターンシップガイダンス
◎ES攻略テスト
◎就職講演会⑤(リクナビ)
6月 ◎就職講演会⑥(業界研究)
◎就職講演会⑦(職種事例研究)
◎学内業界研究会(全9回・各業界代表的企業約20社を招聘)
7月 ◎△▲キャリアアプローチ
◎OB座談会～社会人からのアドバイス
◎就職準備ガイダンス②
◎エントリーシート攻略テストフォローガイダンス
8月 ◎インターンシップ等に積極的に参加
9月 ◎就職準備ガイダンス③
◎就職講演会⑧(就活準備)
◎文章力養成講座(全4回)
9～10月 ◎進路希望面談(3年生全員対象)
10月 ◎就職体験報告会(4年生体験談)
◎就職準備ガイダンス④
10～11月 ◎学内業界研究会(各業界代表的企業約20社を招聘)
12月 ◎ビジネスマナー講座
◎筆記試験模試・対策セミナー
◎面接対策セミナー
◎グループディスカッションセミナー
◎グループディスカッション演習
1月 ◎就職講演会⑨(総括)
◎就職直前ガイダンス
◎横浜キャンパス学内企業研究会①(代表的企業約80社を招聘)
◎模擬面接講座(全5回)
●国家公務員採用試験申込書入手
3月 ◎世田谷キャンパス学内企業研究会①(代表的企業約120社を招聘)

4年生(就職・進学活動の本番です)

4月 ◎就職ガイダンス(求人状況・活動心得等)
◎学内での希望調査及び推薦者決定
▲指導教授と相談の上、進学先の検討
●国家公務員採用試験申込書提出
●地方公務員採用試験申込書入手
2～5月 ◎採用試験(年内から開始の企業あり)
◎採用内々定
●地方公務員採用試験申込書提出
5月 就職ガイダンス(活動アドバイス)
学内企業研究会②
△推薦入学募集要項入手・願書提出
●国家公務員採用試験(1次)
6月 △推薦入学試験
●国家公務員採用試験(2次)
●官方訪問(国家公務員)
●地方公務員採用試験(1次)
7月 ●採用内々定(国家公務員)
7～8月 ●地方公務員採用試験(2次)
8月 △▲第1次試験学生募集要項入手・願書提出
●地方公務員採用試験合格発表(翌年1月頃までに内定)
9月 △▲第1次入学試験
10月 ◎採用内定
◎学内での採用内定報告手続
1月 △▲第2次試験学生募集要項入手・願書提出
2月 △▲第2次入学試験
3月 卒業式

◎就職希望者、○民間企業希望者、●公務員希望者、△本学大学院進学希望者、▲他大学大学院進学希望者(留学含む)

絵で見る

キャンパス SPOT ⑫

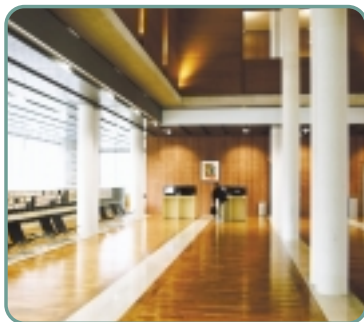
— 世田谷キャンパス新図書館の巻 —



新14号館『SAKURA CENTER#14』に続き、本学創立75周年記念事業の最後を飾る『新図書館』が、2004年10月5日竣工され、2005年4月4日、蔵書25万冊を擁して全面オープンいたしました。地上4階・地下1階建ての外観は、機能美を感じさせるモダンなもの（鉄筋コンクリート造一部鉄骨、延べ床面積約6000平米）。各階ごとに個性的なインテリアを配した点も出色ですが、3階から4階にかけて広がる空中庭園は、まさに圧巻の一言に尽きます。さらにここは、全館無線LAN、ICカードやICタグによる一元管理システム、ビデオ編集ができるパソコン、遠隔会議システムなど、大学図書館として最先端のIT設備を備えているのです。今回はこの“近未来ライブラリー”に、読者の皆様をご案内いたしましょう。



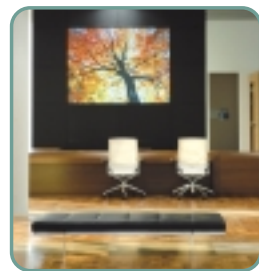
- 開館時間 月～金 9:00～20:00
土 9:00～17:00（日曜祝日、月末図書整理日、創立記念日休館）
- ホームページ <http://www.lib.musashi-tech.ac.jp/>



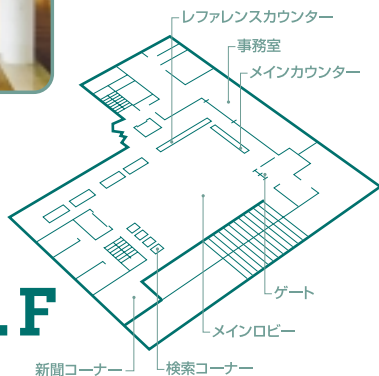
1階のエントランスを入れば、そこは開放的なメインロビー。文庫・新書、新聞、雑誌、地図、新着本コーナーの他、図書の貸出や返却を行うメインカウンター、レファレンスカウンター、事務室などがあります。「分からないことがあれば何でも聞いて下さい」と図書館員の言葉も力強い限りです。



入退館はICカードをゲートにかざして行います。全ての図書館資料にはICタグが貼付されているので、正規の貸出し手続きを踏まないで持ち出そうとすると、警告音が鳴る仕組み。手荷物をロッカーに預ける必要がないので、気楽に館内を歩き回れます。なお、地下1階のゲートも同様のシステムです。（ICカードを持っていない人は、エントランスで図書館員に申し出て下さい）



1階正面には、100インチの巨大なディスプレイを設置。図書館からのお知らせなど、様々な情報を提供しています。ほかにも42インチプラズマディスプレイや、17インチ液晶ディスプレイなどを館内各所に設置。今後は学生が作ったオリジナルのデジタル作品を発表する場としても活用される予定です。



各階には図書資料を効率的に探すための『検索サービス端末』が設置されています。機械力学研究室に仮配属が決まったばかりの機械工学科3年土屋雅史君は、研究で必要となる自動車の衝突に関わる資料を検索中。「前と比べると、広くて、明るくて、快適ですね。検索システムが充実している上に、開架式なので、資料が見つけやすいのもサイコーです」と新しくなった図書館に大満足の様子です。

建築学科1年の小山功二君は、ロビーで友人と待ち合わせ。「建築関係の洋書や新着本をチェックするため、週に2回は図書館を利用します」とのこと。



図書自動貸出機。学部・大学院生、教職員は15冊まで借りることができます。このシステム、実は最先端です。ICカードをかざして、テーブルに本を置けば、図書のICデータをコンピュータが自動的に読みとって、あっという間に手続き完了。何冊重ねてもOKです。



美術館の学芸員もびっくりした幻のグラフィ誌!



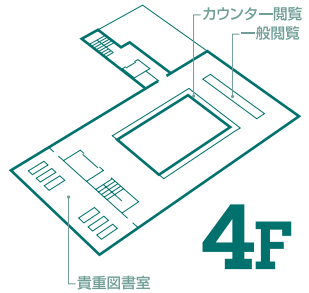
1930年代に海外向けに発行された日本のグラフィ誌『NIPPON』—優れた内容で復刻を望む声が強くなりながら所在確認が困難で叶わなかったという幻の雑誌。本学初の名誉教授となられた故蔵田周忠先生の個人コレクションでは、この『NIPPON』1期・2期刊行分28冊を所蔵。大量の所蔵に、美術館の学芸員も目を見張ったとのこと。これをきっかけに、同誌は国書刊行会から復刻。そのニュースは雑誌『AERA』でも紹介されました。

図書館を管理運営する事務室はエントランス横に配置されました。半透明のガラス張りなので、閉塞感がなく、しかも静かに業務に集中できるそう。「利用者ニーズを反映しながら、もっと使いやすい図書館を目指します」と全図書館員が口を揃えます。



この階に上がる、まず目に入るのがフロア中心部を貫通する空中庭園。植えられたもみじは、秋に美しく紅葉し、冬落ち葉を散らした後、春を経て、新緑を茂らせることでしよう。屋内にいながらにして、自然環境と四季を感じられる心憎い演出です。この階には主に工学系専門書が多数揃えられています。

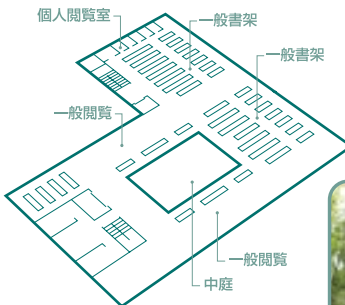
『貴重図書室』には、蔵田コレクションなどが収蔵されています。建築関係のレアブックを中心に、芥川龍之介の初版本や、20世紀最大の建築家といわれるブルーノ・タウトの自筆書簡などがあります。研究目的なので、一般学生は申し込みをしないと入室できません。



4F



高級ホテルのラウンジかと思まちがうほどのラグジュアリーな4階部分。間接照明のおぼろな光と、空中庭園に差し込む自然光とが絶妙のバランスで混在。ここには社会科学や文学関連書が並び、貴重図書室も設置されています。

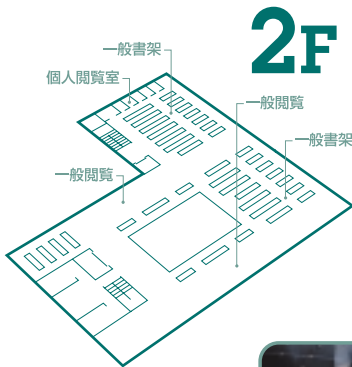


3F

三方からの日差しだけでなく、天井からの自然光がフロア全体をまろやかに包み込む植上の空間。学習・研究の中心となる、自然科学、工学技術、産業関係の図書がぎっしりです。



『個人閲覧室』。集中できるよう遮音性の高い設計とされ、採光もバツグンで開放感にもあふれています。これなら学習効果もめきめき上がりそう。3階にも同じような個人閲覧室（要予約）が5室用意されています。



2F



木の香漂う書齋風インテリアで統一された2階部分。哲学、歴史、芸術、美術関連書や、言語まつわる書籍が整然と並んでいます。まろやかな日差しが入る一般閲覧室の他、一人静かに学習や読書に集中できる個人閲覧室も5室用意されました。

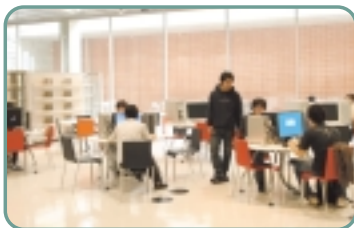
最新の映画DVDや視聴覚ソフトを鑑賞できる『AV視聴コーナー』。建築学科1年の仲良しトリオ、鷲見晴香さん、小柴茉莉さん、工藤真澄さん（写真左より）は、大の図書館ブリーク。「工学系専門書の揃った3階で建築関係の本を見たり、地下1階で洋画を楽しんでいます。これって英語の勉強になりますね」



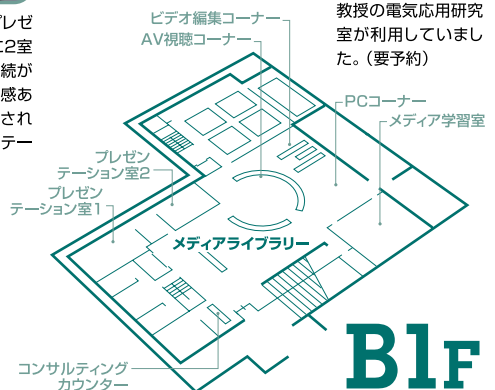
グループ学習などに適した「プレゼンテーション室」は、地下1階に2室用意されました。パソコンと接続ができるプロジェクターや、臨場感あふれるオーディオ設備が用意されているので、効率的なプレゼンテーションを行うことができます。



15インチ液晶タッチパネルでシステムコントロールを行う次世代ミーティングルーム、「メディア学習室」では、遠隔会議も可能。講習会や会議、研究室のプレゼンテーションなど多用途に使われています。この日は、江原由泰助教授の電気応用研究室が利用していました。（要予約）



地下エントランスを抜けると、メディアライブラリーです。AV視聴コーナー、ビデオ編集コーナー、2D3D画像編集コーナー、プレゼンテーション室2室、メディア学習室など、まさに最新の情報・AV機器・システムの宝庫。コンサルティングカウンターに図書館員が常駐しているので、利用法を確認することもできます。なお地下からは専用通路でSAKURA CENTER#14と接続されています。



B1F



クラブ活動紹介 ②③



全国の大学にその強さが知れ渡っている「ラグビー部」と、
環境について高い意識を持つ学生たちが集まる「ISO学生委員会」。
今回はこの両団体の活動状況をレポートします。

全国地区対抗大学ラグビー大会6度優勝を誇る常勝軍団！

ラグビー部



顧問：渡辺一郎(教育研究センター教員)
学生責任者：岩本浩治(都市基盤工学科4年)
部員数：44名(うち女子マネージャー7名)

主な活動

- 4月 関東理工系リーグ予選
- 5月 関東理工系リーグ決勝/東日本大学セブンズ/
新入生歓迎会
- 6月 納会
- 8月 夏合宿(菅平)
- 9月] 全国地区対抗大学ラグビー大会地区予選
- 10月] 全国地区対抗大学ラグビー大会地区予選決勝
- 11月] 全国地区対抗大学ラグビー大会
- 12月] OB戦
- 1月] 全国地区対抗大学ラグビー大会
- 2月] 納会/海外遠征
- 3月] 春合宿(勝浦)

菅平での夏合宿

向かうところ敵なしのチームも、昔は弱かった？

1960年に創部され、今年で45周年を迎えた伝統あるラグビー部。強豪ひしめく全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会を6度制するなど、理工系大学では敵なし、名門総合大学チームからも一目置かれるほどの実力派として知られています。しかし実は創部当初から長きにわたって、全国大会出場など夢のまた夢、ずっと下位に低迷し続ける弱小チームだったのです。

「僕らは“強いムサコー”しか知りませんが、昔はチームを成立させる15名の部員を確保するのも大変だったみたいですね。これを常勝軍団に育て上げたのは、渡辺一郎監督や椿原徹也コーチ、それにOBのみなさんの熱心な指導のおかげと聞いています」(岩本浩治君・キャプテン・都市基盤4年)

ラグビー日本代表の強化委員も務める渡辺先生の監督就任は、'82年のこと。翌年には早くも予選を勝ち抜き、全国大会に駒を進めました。その時の部員数はたったの18名。惜しくも優勝は逸したものの、“理工系大学の快挙!”とマスコミ各誌に報じられたそうです。そして'96年には、遂にこの大会で念願の初優勝を果た

し、以降も怒濤の快進撃を続けているのです。

部員の渡辺監督評は、総じて「厳しいけど優しい」。別に二重人格というわけではありません。練習や試合では厳格に徹し、ひとたび部活動を離れば穏やかな表情に一変、ということ。

「時にはご自宅に私たちを招き、先生の手料理で癒してくれますんです(笑)」(峯岸美幸さん・マネージャー・都市基盤3年)

その強さの秘密は何かと訊ねると、部員一同顔を見合わせて……「しいて言えば、『絶対に優勝するんだ』っていう気力と集中力が高いこと。それから、工業大学らしい論理性と創造性に富んだラグビーを心がけていることでしょうか」(岩本君)





📌 「第55回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会」決勝戦で強豪愛知工大を破り、6度目の優勝!
(2005年1月6日、名古屋瑞穂公園ラグビー場)



📌 同優勝祝賀会(中央が渡辺監督、その左斜め上が榑原コーチ)

📌 学業とラグビーを両立させる!

練習は、4月から6月と、9月から12月までの2シーズン制。火曜日から土曜日までの週5日、多摩川グラウンドで2時間半ずつ汗を流します。スクラムやタックルなどの基礎的なものから、紅白戦などの実践的なものまで、そのメニューはさすがにハード。この間、理工系リーグや、東日本大学セブンズ、地区対抗の予選、本選と息つく間もなく試合日程が組まれ、さらに春1週間、夏は10日間程度の合宿を実施するなど、部員たちは若いエネルギーをラグビーに注ぎ込みます。とはいえ、あくまで学業優先。授業時間と練習が重なったときには授業への出席が義務づけられます。

「大学選手権などに出場するチームは、確かに強いけど、ラグビー漬けの毎日ですよ。その点ばかりは、勉強もやって、ラグビーもやる」(服部樹典君・電気電子情報3年)

現在の部員数は44名。一見多いようですが、7名のマネージャーを除けば37名と、2チームに分かれて試合形式の練習を行うギリギリの人数です。このため4月にはお花見大会を催すなど、新入生の獲得にも躍起とか。ラグビーの甲子園といわれる花園経験者が入部する一方、初めて楯球を手にするビギナーが部室の門を叩くことも少なくありません。その一人、小松良光君(都市基盤3年)は「高校までは陸上部。チームプレーのスポーツがやりたくて、ラグビー部を選びましたが、入ってみるととにかく部内の雰囲気良かった」と言います。

📌 これってスゴくない?

体育会という“上下関係が厳しい”という印象がありますが、ここは和気藹々とした雰囲気、誰もがのびのびと部活動を楽しんでいる様子。練習や試合では厳しくしても、そのほかは緊張を強くない。渡辺監督のポリシーが息づいているのかもしれない。

ラグビー部は毎年、全国地区対抗大学ラグビー大会優勝を目標にがんばっています。楯球のボールをめぐる攻防を制するには、監督、コーチ、そしてマネージャーも含む全員が一丸となって、ゴールへと突き進むこと。常に勝利を求められることへのプレッシャーは大きいでしょうが、それに負けない身体能力と精神力を発揮してくれることを期待しています。



先日の紅白戦で顔を骨折した服部樹典君。それでも試合に出たいと気合いタップリだ



小松良光君は、初心者として入部。3年の今ではウイングとして大活躍、とか



松本校里子さん(建築2年)は、新入生歓迎のお花見大会に参加して入部を決意



ラグビーへの熱い情熱を語る日野純一君(システム情報2年)。実ははようさん者



初心者の稲田昌彦君(環境エネルギー1年)。“天然”っぽいが、闘志は一人倍



田中研吾君(機械1年)も初心者として入部。「ずっとラグビーがやりたかった」



峯岸美幸さんは友人に誘われてマネージャーに。「合宿は洗濯が大変」となかなか家庭的



横浜キャンパスにおける環境活動の象徴的存在

ISO学生委員会



より充実したISO活動を行うために内部監査員養成コースを受講。丸二日間の勉強合宿を体験しました。

顧問：萩原なつ子(環境情報学科教員)
学生責任者：浅利航希(環境情報学科3年)
部員数：64名

主な活動

- 4月 エコキャンパスツアー
- 5月 横浜市G30学生ネット合同活動
- 6月 環境月間
- 8月 出前環境教育
- 9月 合宿
- 11月 環境ISOフォーラム
- 12月 全国大学生環境活動コンテスト
- 2月 合宿
- 3月 出前環境教育



エコキャンパスツアーにて。

4つの部会に分かれて それぞれが精力的に活動

ISOとはInternational Organization for Standardization(国際標準化機構)の略。電気分野をのぞくあらゆる分野について国際的に通用させる規格や標準値を制定するための国際機関で、1947年に発足しました。一般的に「ISOを取得している」とはこの国際標準化機構の審査にパスしていることを指し、横浜キャンパスは環境についての国際標準化を達成した証であるISO14001を日本の大学ではじめて取得したことで知られています。そうした「エコキャンパス」の素晴らしさを守りつつ、絶え間のない改善を続けるよう日々努力しているのが、我々が「ISO学生委員会」の面々。武蔵工大のすべての学生、および近隣の方々への啓蒙活動も積極的に行っている極めて崇高な団体なのです。……そう聞くと、真面目でおかしい学生ばかりが集まっているかのように思う人もいるかもしれませんが、ご安心を。所属しているのは、いい意味でどこにでもいそうな今どきの学生たちばかりです。

ISO学生委員会の発足は、環境情報学部の設定と同じ'97年。以後、年々会員数を増やし、現在は60名を超える大所帯へと成長しています。普段の活動は「環境教育部会」「省エネルギー部会」「省資源部会」「環境管理部会」の4つの部会に分かれて行っています。それぞれの活動内容を簡単に説明すると……。

「環境教育部会」は、全学生により高い環境意識を育むことに主眼を置いて活動しています。中でも新入生に対する教育に力を注いでおり、4月に全新生に向けて実施する学内見学=エコキャンパスツアーも、ここが中心になって行っています。「省エネルギー部会」の活動目的は、学生に省エネ意識を持たせること。省エネに関するアンケートを実施したり、学内におけるエネルギーの使用状況を測定したりしています。横浜キャンパスは、教室の電源スイッチの横など、学内のいたるところに省エネを訴えるポスターが貼ってありますが、あれを制作しているのもこの部会です。「省資源部会」は、正しいゴミ分別の仕方とその意義を学生に指導するのが主な活動内容で、学内の資源リサイクルに大きく貢献しています。最近では学食のゴミ箱の後ろに分別をわかりやすく解説したパネルを展示しました。「環境管理部会」では、毎年ひとつのテーマを決めて研究活動を行い、その成果を学生にフィードバックしています。今年のテーマはズバリ、健康増進法。中でもタバコをクローズアップし、分煙に関する問題点や理想の分煙システムなどについて深く研究しました。



正しい分別が行われているかをチェックするため、月に一度、キャンパス内のゴミ箱の混合率を調査しています。



6月の環境月間には食堂のゴミ箱前に「分別パネル」を設置。わかりやすいと好評を博しました。

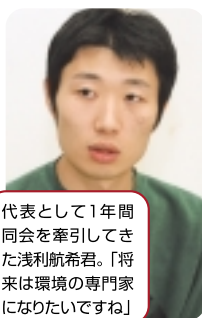
🔔 環境について学ぶだけでなく 行動に移さなければ意味がない

各分会の垣根を越え、ISO学生委員会が総力を結集して行う重要なイベントが2つあります。そのひとつが「環境ISOフォーラム」。毎年秋に開催されるこのフォーラムでは、同団体の1年間の活動を報告する他、著名人の講演会や公開学生座談会など、盛りだくさんの内容を用意しています。「今年度は自転車発電を体験してもらうコーナーや、オーガニック食品の試食コーナーなども企画しました。10時30分から18時まで、丸1日がかりのイベントを我々だけで企画運営するわけですから、その準備が大変。開催間際は毎年自宅に作業を持ち帰り、場合によっては徹夜することもあります」(浅利航希君・代表・環境情報3年)。7回目を数えた同フォーラムは、彼らの頑張りもあって今年も大盛況。後で聞くところによると近隣住民や他大学の学生たちが多く訪れ、約600人以上の参加があったようです。

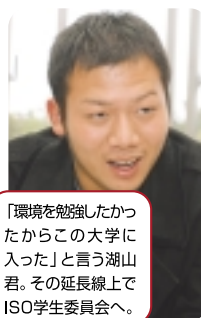
もうひとつの重要なイベントは都筑区から依頼されて行う「出前環境教育」です。これは近隣の小中学校に出向き、総合学習の時間を用いてISO学生委員会の学生たちが環境に関する授業を行うというもの。なかなか好評で平成16年の3月にはある新聞にその模様が紹介されたほど

です。「今年は都筑区役所の会議室をお借りし、はじめて消費生活推進委員の方々を対象に行いました。いつもの小中学生と違って、見渡すと40～60歳代の女性ばかり。すごく緊張しました(笑)」(湖山成基君・副代表・環境情報2年)

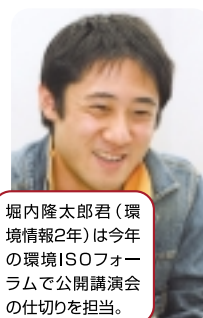
せっかく環境に関連する大学に入学したのだから、学ぶだけでなく、行動しなくちゃ……入会の動機を聞くと、ほとんどのメンバーからそんな頼もしい言葉が返ってきました。ある意味、もともと環境情報学部らしい活動をしていると言えるISO学生委員会。今後、ますます君たちの活動内容が充実していくように、応援しています。



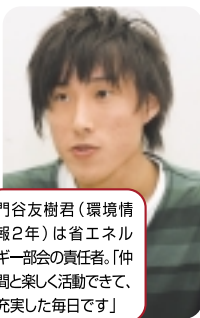
代表として1年間同会を牽引してきた浅利航希君。「将来は環境の専門家になりたいです」



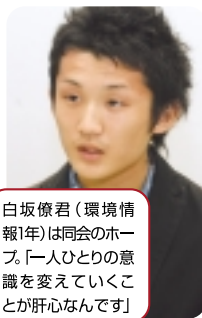
「環境を勉強したかったからこの大学に入った」と言う湖山君。その延長線上でISO学生委員会へ。



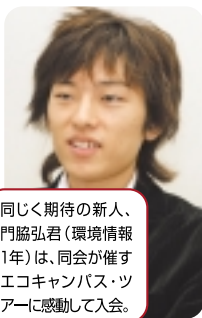
堀内隆太郎君(環境情報2年)は今年の環境ISOフォーラムで公開講演会の仕切りを担当。



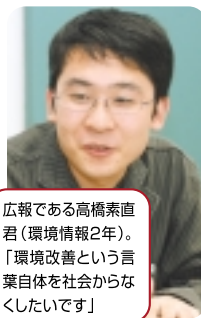
門谷友樹君(環境情報2年)は省エネルギー部会の責任者。「仲間と楽しく活動できて、充実した毎日です」



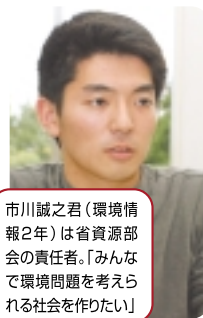
白坂僚君(環境情報1年)は同会のホープ。「一人ひとりの意識を変えていくことが肝心なんです」



同じく期待の新人、門脇弘君(環境情報1年)は、同会が催すエコキャンパス・ツアーに感動して入会。



広報である高橋素直君(環境情報2年)。「環境改善という言葉自体を社会からなくしたいです」



市川誠之君(環境情報2年)は省資源部会の責任者。「みんなで環境問題を考えられる社会を作りたい」

☆7団体が練習の成果を披露し、大勢の観客を魅了したMUSIC FESTIVAL

文化団体連合会 本部長
八木 のぞみ (電子通信工学科3年)

平成17年6月18日、恵比寿にあるライブハウスGUILTYにて武蔵工業大学文化団体連合会主催のMUSIC FESTIVALが行われました。MUSIC FESTIVALとは毎年6月中旬ごろに文化団体連合会が主催しているもので、文化団体連合会に所属している音楽系の団体が参加して日ごろの活動を披露し、お互いのことをよく知ってもらおうという目的で開催している音楽祭です。今年参加した団体は、マンドリンクラブ、ウエスタンクラブ、フォークソングクラブ、ハワイアンクラブ、パッチャーセブン、音楽団体PLAM、軽音楽団体スナイパーズの計7団体でした。最初にステージに上がったのは

マンドリンクラブです。10名を超える部員がマンドリンなどのいろいろな楽器を使い、とてもきれいな音色を聴かせ観客を魅了していました。そしてフォークソングクラブ、ウエスタンクラブ、パッチャーセブン、軽音楽団体スナイパーズ、音楽団体PLAMと続き、最後はハワイアンクラブでした。これらの団体はマンドリンのきれいな音色とはうってかわって激しいロック調の音で観客を沸かせていました。観客のテンションも終わりに近づくにつれ上がっていき、最後は大変な盛り上がりでした。来年度も開催するので今回来られなかった方はぜひお越しください。



☆ハンドボール部大健闘

ハンドボール部監督 潮田 政広



去る9月4日～10月9日に行われた関東学生ハンドボール秋季リーグ戦(2部)において、本学ハンドボール部は強豪チーム相手に7勝2敗の好成績で2部リーグ2位の成績を収めた。1部9位の東海大学との入れ替え戦では、28-44と敗れはしたが、会場に詰めかけた多くのハンドボールファンからは、武蔵工大の健闘に対し驚きと共に惜みない拍手を受け、来季以降の益々の活躍が期待できそうな印象を強く与えた。

尚、来季の春季リーグでの上位校は右記のとおりである。

関東学生ハンドボール連盟	
1部リーグ	2部リーグ
1. 筑波大学	1. 国際武道大学
2. 日本体育大学	2. 武蔵工業大学
3. 早稲田大学	3. 横浜商科大学
4. 日本大学	4. 関東学院大学
5. 中央大学	5. 東京学芸大学
6. 法政大学	6. 慶應義塾大学
7. 国士舘大学	7. 青山学院大学
8. 明治大学	8. 埼玉大学
9. 東海大学	9. 大東文化大学
10. 順天堂大学	10. 東京大学



☆「永遠に続け!」未来への希望を託した 第76回MI-TECH祭

第76回MI-TECH祭実行委員会 委員長
角田 隆之(電子通信工学科3年)



平成17年11月18日～20日の3日間、世田谷キャンパスにおいて、第76回MI-TECH祭が開催されました。今年のテーマは「○」[wa]となっており、これには、人と人の繋がり「輪」、平和の「和」などの意味を込め、また、禅の世界において「始まりも終わりもなく永遠に続くもの」、「自己を見つめる」という意味を持つ「円相」から100回、200回とMI-TECH祭が続いて欲しい、またMI-TECH祭に携わる皆さんが自己と向き合えるような学園祭にしていきたい、という願いが込められています。

今年は初日が金曜日ということもあり、開催が午後からとなりましたが開祭式を迎えると待ち構えていたかの様に活気に包まれました。初日のメインの企画として木村祐一さんによるトークショーがアリーナで行われ、立ち見が出るほどの盛況でした。

2日目には毎年恒例の「DJフェスティバル」がメインステージにて、「Jazz Festival」がサクラガーデンにて行われました。また例年行

われているコンサートに代わる企画として、今年はテレビ等で大活躍のアンジャッシュ、まちゃまちゃ、長州小力の3組による「お笑いライブ」が行われました。お笑いライブは学内生だけでなく学外からも多数のお客さんにお越しいただくことができた大盛況でした。

3日目は「吹奏楽団による演奏会」、「後夜祭」が行われ、特に後夜祭においては豪華賞品の当たる抽選会・お笑いライブ・アイドルライブが行われ、今年の学園祭の締めくくりとして来場者の方々に楽しんでいただけました。

今年は3日間を通じて晴天に恵まれ、とても多くの方にお越しいただくことが出来ました。今年のテーマにある通り、私どもMI-TECH祭実行委員会はこの3日間を通じて多くの事を学ぶ事ができ、また多くの人と触れ合う事が出来ました。この経験を生かし、来年度はより皆様に楽しんでいただける学園祭を創ってきたいと思います。

◎課外活動短評

- 航空研究部 —— 第15回モデルロケット全国大会定点着地競技において、佐野厚君(環境エネルギー1年)が3位入賞を果たした。
- 硬式野球部 —— 東都大学野球連盟平成17年度秋季リーグ戦において太田昌君(システム情報1年)が首位打者となった。
- 水泳部 —— 柴田洸輔君(コンピュータ・メディア1年)が、第81回日本学生選手権水泳競技大会出場を果たした。
- ラグビー部 —— 昨年度に引き続き、全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会予選において優勝し、全国地区対抗大会への11年連続16回目の出場権を獲得した。
- アメリカンフットボール部 —— リーグ戦において、1部入れ替え戦出場を果たした。
- ハンドボール部 —— 関東学生ハンドボール2部春季リーグ戦において、市倉祥広君(都市基盤4年)が、得点王となった。また、秋季リーグでは1部入れ替え戦出場を果たした。
- ソフトテニス部 —— 関東学生春季リーグ戦において、全勝優勝8部昇格を果たし、岡部剛広君(電子通信3年)・中村辰哉君(情報メディア3年)ペア、藤井祥吾君(都市基盤1年)が全勝賞を獲得した。また、秋季リーグ戦においても全勝優勝7部昇格を果たし、八重樫司君(建築4年)・菊池学君(環境情報2年)ペアが全勝賞を獲得した。
- 準硬式野球部 —— 新関東大学準硬式野球リーグにおいて、村松敬之君(機械システム2年)が最優秀打者に選ばれた。

◆◆平成17年度◆◆「大学と父母との連絡会」実施結果◆◆

平成17年度の「大学と父母との連絡会」は7月16日(土)沖縄の那覇市を皮切りに10月1日(土)の東京・横浜地区までの間、全国26会場において開催されました。各会場の出席状況は下記のとおりで、各地において評議員の方々には運営等にご協力いただきました。

◆ 会場別出席世帯数 (対象県以外からの出席者を含む)

開催地	開催日	会場名	出席世帯数
札幌	9月10日(土)	京王プラザホテル札幌	5
仙台	9月11日(日)	ホテル仙台プラザ	30
秋田	9月10日(土)	アキタパークホテル	9
郡山	9月 3日(土)	ホテルハマツ	19
宇都宮	9月 4日(日)	宇都宮グランドホテル	31
水戸	9月 3日(土)	三の丸ホテル	35
東京	10月 1日(土)	武蔵工業大学 世田谷キャンパス	481
横浜	10月 1日(土)	武蔵工業大学 横浜キャンパス	183
高崎	9月 4日(日)	ホテルメトロポリタン高崎	15
新潟	9月 3日(土)	ホテルイタリア軒	18
甲府	9月 3日(土)	ホテル談露館	36
長野	9月 4日(日)	ホテル国際21	16
松本	9月 3日(土)	ウエストーンホテル	8
富山	9月11日(日)	名鉄トヤマホテル	9
金沢	9月10日(土)	金沢都ホテル	12
三島	9月10日(土)	三島グランドホテル	36
静岡	9月11日(日)	静岡グランドホテル中島屋	41
浜松	9月10日(土)	オークラクトシティホテル浜松	27
名古屋	9月11日(日)	名古屋国際ホテル	21
大阪	9月11日(日)	大阪東急イン	8
広島	9月10日(土)	リーガロイヤルホテル広島	10
高松	9月 4日(日)	全日空ホテルクレメント高松	7
松山	9月 3日(土)	チサンホテル松山	2
福岡	9月11日(日)	ホテル日航福岡	26
大分	9月10日(土)	大分第一ホテル	13
那覇	7月16日(土)	ホテル西武オリオン	4
合 計			1102

◆ 都道府県別出席世帯数

都道府県名	出席世帯数	前年度出席世帯数
北海道	4	8
青森	2	2
岩手	2	6
宮城	23	16
秋田	8	5
山形	6	4
福島	24	24
茨城	46	34
栃木	34	40
群馬	16	11
埼玉	49	41
千葉	50	37
東京	187	176
神奈川	345	289
新潟	19	20
富山	10	14
石川	12	11
福井	2	2
山梨	38	28
長野	24	19
岐阜	4	4
静岡	108	129
愛知	17	10
三重	1	2
滋賀	0	2
京都	1	4
大阪	3	2
兵庫	2	1
奈良	1	0
和歌山	0	0
鳥取	0	0
島根	2	1
岡山	0	0
広島	9	7
山口	0	1
徳島	2	5
香川	4	1
愛媛	3	2
高知	1	5
福岡	20	12
佐賀	3	1
長崎	1	3
熊本	1	0
大分	12	3
宮崎	1	9
鹿児島	1	2
沖縄	4	3
その他	0	0
合 計	1102	996